

- 問1 紀元1世紀から17世紀までの東アジアにおける日本の対外関係をまとめた年表において、最も古い時期に記される「後漢への朝貢」に関連する問いです。当時の倭の奴国の王が中国の皇帝から授かったとされる、現在の福岡県志賀島で出土した品物はどれですか。 (2025年 沖縄県公立入試 類似)
1. 勘合貿易で用いられた割符 2. 「親魏倭王」と刻まれた金印 3. 「日出処天子」と記された国書 4. 「漢委奴国王」と刻まれた金印
- 問2 古墳時代において、近畿地方から始まったとされる前方後円墳が、後に徳島県や香川県など近畿以外の地域でも築かれるようになりました。この「前方後円墳」が普及した主な要因として、当時の政治体制の仕組みから説明したものととして適切なものはどれですか。 (2023年 愛知県公立入試 類似)
1. 大和政権と結びついた地方の豪族が、自らの地位や権威を示すために共通の形式で墓を造ったため 2. 地方の豪族が大和政権に対抗するために、あえて近畿とは異なる独自の形式の古墳を築いたため 3. 大和政権が全国に国司を派遣し、地方の文化をすべて近畿のものに統一する政策をとったため 4. 班田収授法によって、全国の農民が等しく古墳を築く権利を認められたため
- 問3 5世紀の古墳から出土する、甲冑（よろい・かぶと）を身にまとい、背中に矢を背負った武人の姿を模した土製品について、当時の社会状況を踏まえた説明として最も適切なものはどれですか。 (2026年 群馬県公立入試 類似)
1. 七支刀と呼ばれ、百済の王から贈られた最新の鉄製武器の威力を示している 2. 弥生土器と呼ばれ、大陸から伝わった金属器の使用法を儀礼的に示している 3. 人物埴輪と呼ばれ、当時の緊迫した東アジア情勢を反映した軍事文化を伝えている 4. 唐から伝来した仏教儀礼に基づき、寺院の門に配置される守護神を表している
- 問4 4世紀から7世紀頃、大陸から日本列島へ移住した人々が、大和政権の成長や社会の発展に与えた影響として、最も適切な説明はどれですか。 (2026年 山形県公立入試 類似)
1. 遣隋使や遣唐使として大陸に派遣され、最新の政治制度を学んで帰国した後に律令国家の建設を主導した。 2. 九州沿岸の警備にあたる防人として任命され、大陸からの侵攻を防ぐ軍事的な役割を専門に担った。 3. 稲作の技術を初めて日本に伝え、狩猟や採集を中心とした社会から定住社会への転換を促した。 4. 須恵器の製作技術や漢字、仏教などを伝え、政権の組織づくりや文化の発展に大きく貢献した。
- 問5 日本列島の主要な地域を、九州北部、大阪付近、関東の内陸部、四国南東部の4地点に分けたとき、日本最大の前方後円墳である大仙古墳（仁徳天皇陵古墳）が位置する場所として最も適切なものはどれか。 (2020年 三重県公立入試 類似)
1. 関東の内陸部 2. 四国南東部 3. 九州北部 4. 大阪付近
- 問6 航空写真などの上空からの視点で見ると、前方部が方形（四角形）、後方部が円形をしており、全体として巨大な鍵穴のような形状をしている日本独自の古墳の名称として適切なものはどれか。 (2020年 佐賀県公立入試 類似)
1. 前方後円墳 2. 八角墳 3. 方墳 4. 円墳
- 問7 4世紀末から5世紀頃、ヤマト政権は大和地方を中心に勢力を拡大しましたが、その過程で地方の有力な豪族に対し、権力の象徴である銅鏡などを与える政策をとりました。この行為の主な目的として、当時の政治状況から考えて最も適切なものはどれですか。 (2024年 山口県公立入試 類似)
1. 鉄製の武器を効率的に生産するための最新技術を、各地の豪族に共有するため 2. 全国の一様な税制を確立するために、度量衡の基準として鏡を配るため 3. 地方豪族に仏教を布教し、大陸の進んだ思想で精神的な統一を図るため 4. 地方豪族との政治的な結びつきを強め、自身の支配下に置くため
- 問8 5世紀ごろ、大和政権（ヤマト政権）の支配が関東地方や九州地方まで及んでいたことを示す歴史資料があります。埼玉県の稲荷山古墳や熊本県の江田船山古墳から出土した鉄剣・鉄刀に、その名が刻まれていた人物として正しいものを選びなさい。 (2019年 愛媛県公立入試 類似)
1. 中大兄皇子 2. 卑弥呼 3. 聖徳太子 4. ワカタケル大王
- 問9 古墳時代において、特定の地域に限定されず、全国各地で大規模な前方後円墳が築造されたという事実は、当時の政治状況についてどのようなことを示していますか。最も適切な説明を選びなさい。 (2018年 大分県公立入試 類似)
1. 仏教の影響が全国に及び、共通の儀礼に基づいた埋葬方法が庶民にまで普及したこと。 2. 各地の豪族が、大陸から伝わった最新の墓制を競い合うようにして独自に導入したこと。 3. 大和政権を中心とした政治的な連合や服属関係が、各地の豪族との間に結ばれていたこと。 4. 狩猟・採集中心の社会から、稲作を中心とする平等な共同体へと社会が変化したこと。
- 問10 4世紀末から5世紀の山口県の古墳から出土した銅鏡の記述など、瀬戸内海の航路の要所に位置する地域から王権に関連する品々が見つかることがあります。この事実から推測される、当時のヤマト政権の地方支配のあり方として正しいものはどれですか。 (2024年 山口県公立入試 類似)
1. 遣隋使を派遣するための寄港地を確保するため、山口県周辺を王権の直轄地とした 2. 邪馬台国の女王卑弥呼が中国から受け取った鏡を、瀬戸内海の豪族に再分配した 3. 大陸から伝来した青銅器の製造技術を、農業振興のために全国の農民へ普及させた 4. 海上交通の要所に位置する豪族と連携し、物流や情報のルートを確認しようとした
- 問11 日本最大の前方後円墳である大仙古墳など、古墳時代の遺跡や出土品に関する説明として誤っているものを、次のうちから1つ選びなさい。 (2026年 徳島県公立入試 類似)
1. 豪族の権威を示すための副葬品として、銅鏡や鉄剣などが納められた。 2. 女性の姿などをかたどった土偶が、魔よけや豊かな収穫を祈るために作られた。 3. 大仙古墳のように円形と方形を組み合わせた形状の古墳が造られた。 4. 古墳の周囲や墳丘には、素焼きの土器である埴輪が並べられた。
- 問12 ヤマト政権が巨大な前方後円墳を築き、その周囲に武装した人物の像などの埴輪を並べたり、鉄剣に首長の称号を刻んだりした歴史的な背景として、最も適切なものはどれですか。 (2015年 岡山県公立入試 類似)
1. 貴族による摂政・関白の政治を安定させるための儀式として行ったため 2. 仏教を全国に広めるために、寺院の代わりとして巨大な墓を建立したため 3. 各地の豪族に対して、王権の強大な軍事力や政治的な支配力を示すため 4. 大陸から伝わった稲作の技術を記念し、収穫を祝う祭祀の場とするため
- 問13 古墳時代における渡来人の移動と技術伝来が、当時の日本列島の社会に与えた影響について述べた文章として、最も適切なものはどれですか。 (2025年 岩手県公立入試 類似)
1. 青銅器と鉄器が同時に伝わり、金属器を使った道具の製造が初めて行われた。 2. 須恵器の製造技術や漢字・儒教などが伝わり、社会の技術や文化が大きく向上した。 3. 大陸からの技術移転により、日本列島で初めて米作り（水稲耕作）が始まった。 4. 全国に国分寺や国分尼寺が建てられ、仏教を中心とした国家体制が完成した。

答え合わせ・解説

問1	答え 4 「漢委奴国王」と刻まれた金印	紀元1世紀（西暦57年）、倭の奴国の王は中国の後漢へ使者を送り、光武帝から金印を授けられました。これは、当時の日本の小国が中国の皇帝に朝貢することで、自らの支配の正当性を認めさせようとした初期の事例です。この金印には「漢委奴国王」と刻まれており、江戸時代に志賀島で発見されました。
問2	答え 1 大和政権と結びついた地方の豪族が、自らの地位や権威を示すために共通の形式で墓を造ったため	前方後円墳の広まりは、大和政権を中心とした政治的な秩序が形成されていたことを裏付けています。地方の豪族は大和政権から認められることで自らの支配権を正当化し、その象徴として大和政権の王と同じ形式の古墳を築きました。班田収授法や国司の派遣は、後の律令時代の制度であり、古墳時代の大和政権による統治体制とは異なります。
問3	答え 3 人物埴輪と呼ばれ、当時の緊迫した東アジア情勢を反映した軍事文化を伝えている	古墳時代中期にあたる5世紀には、高句麗の南下による朝鮮半島の緊張状態が倭（日本）にも波及していました。古墳に副葬された武人などの人物埴輪は、当時の武具の構造を正確に伝えており、埋葬された豪族の軍事的な権威を誇示したり、死者の霊を守ったりする目的があったと考えられています。
問4	答え 4 須恵器の製作技術や漢字、仏教などを伝え、政権の組織づくりや文化の発展に大きく貢献した。	移住した人々は、須恵器の製作、金属器の加工、養蚕、織物といった実用的な技術だけでなく、漢字や仏教、儒教といった学問や宗教も伝えました。これらの知識や技術は、大和政権が国内を統治するための公文書作成や、国家としての権威を高めるための寺院建築などに活用され、古代日本の国家形成において不可欠な役割を果たしました。なお、稲作の伝来は弥生時代、防人の制度は7世紀後半の白村江の戦い以降に本格化したものです。
問5	答え 4 大阪付近	大仙古墳（仁徳天皇陵古墳）は、大阪府堺市にある百舌鳥古墳群を構成する古墳の一つです。5世紀の日本において、近畿地方に拠点を置いたヤマト政権（大和朝廷）の大王が、各地の豪族を従えるほどの強大な権力を確立していたことを示す重要な史跡です。
問6	答え 1 前方後円墳	3世紀後半から6世紀にかけて、ヤマト政権の勢力下にあった地域で築かれた日本独自の形式です。大阪府の大仙古墳（伝仁徳天皇陵）に代表されるように、大規模なものは当時の有力者の権力を象徴しています。
問7	答え 4 地方豪族との政治的な結びつきを強め、自身の支配下に置くため	ヤマト王権は、近畿地方を拠点として各地の有力な豪族を従属させることで勢力を広げました。王権から豪族へ銅鏡などの貴重な品を分け与える行為は、王権への服従を誓わせる対価として、その地域での支配権を公式に認めるという意味合いを持っていました。これにより、武力による制圧だけでなく、政治的な主従関係による連合体のような支配体制を築いていきました。
問8	答え 4 ワカタケル大王	埼玉県の稲荷山古墳や熊本県の江田船山古墳から出土した文字が刻まれた鉄剣・鉄刀には、大和政権の「ワカタケル大王」という名が記されていました。同一人物の名が刻まれた遺物が関東と九州の双方で見つかったことは、5世紀後半には大和政権の支配力が日本列島の広範囲に及んでいたことを証明する重要な根拠となっています。
問9	答え 3 大和政権を中心とした政治的な連合や服属関係が、各地の豪族との間に結ばれていたこと。	前方後円墳という日本独自の特定の形式が列島の広い範囲に普及したことは、それらの地域が「大和政権」を中心とする政治秩序の中に組み込まれていたことを意味します。共通の墓の形を採用することは、大和の王との結びつきを周囲に示す重要な手段でもありました。
問10	答え 4 海上交通の要所に位置する豪族と連携し、物流や情報のルートを確保しようとした	ヤマト王権が全国的な影響力を強めるためには、朝鮮半島や中国大陸との外交、あるいは国内の物資輸送に欠かせない海上交通路を掌握することが不可欠でした。山口県のように瀬戸内海沿岸の重要な地点を治める豪族に対し、権威の象徴である銅鏡を与えることで味方につけ、安定した航路の確保と地方への影響力行使を両立させていたと考えられます。なお、卑弥呼の時代は3世紀であり、この問題が扱う4～5世紀とは時代が異なります。
問11	答え 2 女性の姿などをかたどった土偶が、魔よけや豊かな収穫を祈るために作られた。	土偶は縄文時代に作られたものであり、古墳時代のものではありません。古墳時代には、古墳の周囲に埴輪が立てられ、内部には副葬品として銅鏡や鉄剣などが納められました。
問12	答え 3 各地の豪族に対して、王権の強大な軍事力や政治的な支配力を示すため	古墳の巨大化や、武人などをかたどった埴輪の設置、そして「大王」という称号を刻んだ鉄剣を配ることは、ヤマト王権の優れた技術力や軍事的な権威を内外に示す目的がありました。これにより、各地の有力な豪族を自らの支配下に組み込み、連合政権としての基盤を固めていきました。
問13	答え 2 須恵器の製造技術や漢字・儒教などが伝わり、社会の技術や文化が大きく向上した。	古墳時代に朝鮮半島から渡来人が移住したことで、須恵器の製造技術に加えて漢字、儒教、仏教、機織などの高度な文化や技術が伝わり、日本の技術や生活文化が飛躍的に発展しました。